



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R6年度 第3号①
津山教育事務所 7月

第1回目のAP訪問も大詰めを迎えています。終了校においては、事前・当日の準備、面談、公開授業、協議等、対応ありがとうございました。昨年度からの成果と課題を踏まえ、課題の克服、さらなる改善に向けての校長先生の熱い思いを直接聞かせていただきました。また、**学校の設定した協議題**に沿って、参加者全員で忌憚のない意見を出し合い有意義な時間を持つことができました。具体例を挙げながら「今の方向で進んでいきたい」「改善のヒントをいただいた」等、学校の**振り返り**も共有しました。

さて、1学期ももうすぐ終わりますが、各学校の児童・生徒の実態やこれまでの取組の進捗状況を踏まえ、中間期に向けて、**イメージの明確化と具体的手立ての共有化**を図り、**APの実行につなげていく**ことが大切です。そこで、AP訪問における協議を通して生まれた**多くの気づき**を、8つの協議題ごとに分類してステップアップ通信にまとめてみました。

例を参考に、**新たに自分の学校に生かせそうなことは、重点的に取り入れてみてください。**
また、**各学校の実態に合わせて具体的実践を付け加えていってください。**

ステップアップ通信第3号②~⑤

- (1) 3号②協議題 「主体的かつ組織的にAPを進めるには?教職員の参画意識を高めるには?」
- (2) 3号②協議題 「授業力向上に向けて、単元構想は?」
- (3) 3号③協議題 「子どもに学びを委ねる授業づくりについて」
- (4) 3号③協議題 「主体的な子どもを育てるには?」
- (5) 3号④協議題 「対話的な学びを充実させるには?」
- (6) 3号④協議題 「深い学びにまで高めるには?」
- (7) 3号⑤協議題 「基礎学力の向上を目指して」
- (8) 3号⑤協議題 「非認知能力を土台にした学びについて」

今回のAP訪問で多くの協議題が設定されましたが、8つの観点に分類してまとめてみました。



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



(1) 協議題「主体的かつ組織的にAPを進めるには？教職員の参画意識を高めるには？」

- ・昨年度末に、部会ごとに**昨年度の成果と課題**を出し合い、今年度のAPプランを作成した。
- ・今年度の新たなメンバーで、改めて**育てたい子どもの姿のイメージ**を出し合い共有した。
- ・**取組の意味や価値**を全教職員が理解し、納得して進めたい。
- ・なぜ、そのような子どもを目指すのか、なぜその取組をするのか、「**そもそも論**」を大切に行っていきたい。教職員が**目的を意識**すると、子どもたちへの指導の言葉が変わってくると思う。
- ・教師主導の授業になっているので、なぜ、児童生徒の主体的な学び、対話的な学びが必要なのかを再度共有し、**指導観の転換**を図っていきたい。
- ・職員会議、校内研、終礼等を活用し、短時間でも教職員が**実践を語る場**を確保している。**意図的に人材育成**につなげている。
- ・研究部が学校の実態を加味して、**〇〇型スタイルを提案**した。〇〇型スタイルに挑戦しながら、校内研で**相談会**を設け、困り感を出し合い、解決策を一緒に考えている。
- ・1学期の早い時期に**提案授業**を行い、学校の目指す授業イメージを話し合った。
- ・若手1人だけでなく**複数で授業を参観する場**を取り入れている。（導入部分だけ、学び合いの場面だけなど絞って参観する方法もある。）
- ・板書や写真、動画で**授業モデルを共有**している。よい実践を取り上げ、教職員の意欲も高めている。
- ・取り組んでいることを確認・交流し改善していくような**実践交流の場**を研修に位置付けている。

(2) 協議題「授業力向上に向けて、単元構想は？」

- ・**学習指導要領**をもとに授業を組み立てるよう働きかけている。
- ・「**資質・能力**」を育てる授業にすることを意識していきたい。
- ・一時間の授業においても、**育てるべき「資質・能力」**を設定したい。
- ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の**どこに重点をおく授業**か明確にしている。**児童・生徒ともめあて**を作るときに**本時のゴールを共有**している。
- ・**教科特有の見方・考え方**を押さえておきたい。
- ・単元計画を立てておくと、目の前の1授業に追われるのではなく、**ポイントを押さえた授業**につながる。**児童生徒とも単元計画を共有**している。教職員の**働き方改革**にもつながると思う。



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



イメージの明確化と具体の手立ての共有化→APの実行度を上げていきましょう!

(3) 協議題「子どもに学びを委ねる授業づくりについて」

- ・ **何のために学びを委ねるのか**、その目的について意見を出し合った。
- ・ **能動的に学び続けることのできる力を育成**していくために、**委ねる場のある授業を繰り返し**創造していきたい。
- ・ **いつ、どこまで委ねるべきなのか**、研究していきたい。そのためには単元構想が非常に重要であり、教師の深い教材解釈のもと、学びを**大きく委ねる**、**小さく委ねる**、その**使い分け**が大切だと思う。
- ・ 学びを委ねるには、子どもたちが**見通し**をもち、自力解決に向かうことができるような**導入**が大切になってくる。話し合う場合も**視点**をはっきりさせておく必要がある。

(4) 協議題「主体的な子どもを育てるには？」

○目指す児童生徒のイメージはどんな姿?

- ・ 学ぶことに**興味**や**関心**をもつ。
- ・ **わからないこと**や**疑問点**を出し合う。
- ・ 既習事項との**違い**に気づく。
- ・ **問い**をつくる。
- ・ 解決への**見通し**をもつ。
- ・ 「できるかも!」「できそう!」「～したい!」等、児童生徒が**その気**になる。
- ・ 教科書や資料等の考え方を手掛かりに**自分で考える**。
- ・ 自分の考えを**図**や**表**、**言葉**、**思考ツール**、**ICT機器**等を用いて表す。

○導入の場面での具体的な手立ては?

- ・ **生活**に根差した問題を設定する。
- ・ **具体物**をタイミングよく提示する。
- ・ 前時の**振り返り**を活用する。
- ・ **事前学習**から**疑問点**を引き出す。
- ・ 既習事項との**違い**に気づかせる。
- ・ 児童生徒の**困り感**を**予想**し、**手立て**を考えている。
- ・ **児童生徒の言葉**から**めあて**を作る。
- ・ 自力解決のための**見通し**を持たせる。**UD化**。



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



イメージの明確化と具体的手立ての共有化→APの実行度を上げていきましょう!

(5) 協議題「対話的な学びを充実させるには？」

- 目指す児童生徒のイメージはどんな姿?
 - ・わからないことや疑問点を**質問**する。 ・ **ICTを活用**して考えを**共有**する。
 - ・友達の考えに**共感**したり、**違い**に気づいたりする。
 - ・話し合いを通じて、**自分の考えを広げたり、深めたりする。**
- 学び合いの場面での具体的な手立ては?
 - ・ペアやグループで**話し合う意図**を明確に持っておきたい。
 - ・**聞き手**を育てる必要がある。(反応する、疑問をみつける、比べる等)
 - ・わからないことを伝えたり質問したりすることができる **学級風土を醸成**する。
 - ・**話し合いの視点**を明確にする。 ・ **思考ツール**を活用させる。
 - ・児童生徒の思考をさぐり、**見取り**に基づいた**意図的指名**が必要だ。
 - ・話し合いを**ファシリテート**する。**子どもの発言をつないで**いきたい。

(6) 協議題「深い学びにまで高めるには？」

- 目指す児童生徒のイメージはどんな姿?
 - ・**図や表、言葉、思考ツール、ICT機器**等を用いて自分の考えをわかりやすく説明する。
 - ・**教科特有の用語**を用いて説明する。 ・ 知識を**関連付け**て深く理解する。
 - ・**新しい考え方**を創り出す。 ・ 「やったあ」「できた!」「なるほど!」等の**達成感**がある。
 - ・各教科の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせる。
 - ・「**振り返り**」にその**授業の本質**を記述している。
- 深い学びに高めるための具体的な手立ては?
 - ・単元構想に基づき、**本時のねらい(付けさせたい力)**を**明確**に持っている。
 - ・**ゆさぶる発問**をする。 ・ **深める視点**をもち、児童生徒から学びを引き出す。
 - ①教科の見方・考え方 ②一般化(つまり) ③具体化(たとえば) ④既習との関連付け



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



イメージの明確化と具体の手立ての共有化→APの実行度を上げていきましょう!

(7) 協議題「基礎学力の向上を目指して」

- ・ **学びに向かう土台**として、**認め合う学級風土**をあらゆる場で醸成しておきたい。
- ・ **聞く力**を育てていくと同時に、児童生徒のエネルギーを発散する**動きのある**授業、児童生徒が**活躍する**授業を創造していきたい。
- ・ 学び方や教科特有の用語、教科・総合等の**学びの足跡**の掲示物が充実しており、児童生徒の**課題解決情報**になるとともに**意欲喚起**につながっている。
- ・ 読解力を高めるワークシートを課題に出し、解き直し時間の確保、解き方スキルの活用、誤答の説明など、**学びのサイクルをシステム化**して取り組んでいる。
- ・ 朝学習で、自分の選んだ算数プリントに挑戦している。全学年の算数プリントを用意するとともに、児童が自分の力に合わせて**自己選択**できるよう**関所プリント**も用意している。
- ・ **家庭学習の目的**を保護者や児童生徒と共有し、**自己成長**のために努力させたい。
- ・ **予習的課題**を課して授業につなげている。**わからないことや疑問点**をもたせ、**自分事**として授業に参加させたい。

(8) 協議題「非認知能力を土台にした学びについて」

- ・ 授業、家庭学習、行事等全てに3つの非認知能力「**やる気・ねばる・つながる**」を育むことは、**学習の構えを育てる**ことにつながる。特に、「つながる」は友達の意見を聞く、友達を大切にするという**支持的風土**の中でこそ、意見を伝え合うことができる。
- ・ 非認知能力を土台に、授業のめあてにもどんな力をつけたいかを見える化している。(知・徳の連動)
- ・ 「がんばるぞう」「一緒にやるぞう」「やってみるぞう」(「～さい」から「～ぞう」への**観の転換**)
- ・ **特別支援の観点**や**学びの足跡**が見える掲示物等、環境を整え、**自己肯定感**を高めることにつなげたい。